

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 58-023612

(43)Date of publication of application : **12.02.1983**

---

(51)Int.Cl.

A61K 7/00

---

(21)Application number : **56-122240**

(71)Applicant : **OSAKA CHEM LAB**

(22)Date of filing : **04.08.1981**

(72)Inventor : UCHIDA YOSHIHIRO

**KADOTA AKIMI**

**FUJIKAWA MAKIHIKO**

---

### (54) COSMETIC COMPOSITION CONTAINING CRUDE DRUG COMPONENT

#### (57)Abstract:

PURPOSE: The titled composition, containing powder of *Paeonia albiflora* Pall. (peony) or *Paeonia suffruticosa* Andr. or an aqueous extract thereof, etc., and capable of exhibiting improved effect on the improvement of skin roughening, liver-spot, ephelis, pimple, itching, etc. in the form of a cream, nursery powder, soap, etc.

CONSTITUTION: The titled composition containing powder of *Paeonia albiflora* Pall, (peony) or *Paeonia suffruticosa* Andr. or an aqueous extract thereof as an essential component. The crude drug component has a long history as an internal medicine and high safety.

Furthermore, the continuous use thereof contained in a cosmetic has improved effect on the improvement of skin roughening, liver-spot, ephelis, pimple, itching, etc., and suitable for the drug component to be mixed with the cosmetic generally in continuous use. The *Paeonia albiflora* Pall. in the component is the dried root thereof, and the *Paeonia suffruticosa* Andr. is the dried root bark thereof. The aqueous extract is obtained by extracting the root or root bark with water or aqueous alcohol, e.g. 30% ethanol, at 15W25°C, and the mixing ratio is 0.005W2wt% based on the total crude drug.

---

#### LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than

the examiner's decision of rejection or  
application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—23612

⑪ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 61 K 7/00

識別記号

庁内整理番号  
7432—4C

⑬ 公開 昭和58年(1983)2月12日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭ 生薬成分含有化粧料組成物

福山市鞆町鞆804

⑮ 特 願 昭56—122240

⑯ 発 明 者 藤川真木彦

⑰ 出 願 昭56(1981)8月4日

京都市伏見区深草開土口町2—7

⑱ 発 明 者 内田義弘

⑰ 出 願 人 株式会社大阪薬品研究所内

大阪市大正区泉尾1丁目22—23

豊中市東寺内町173番606号

⑲ 発 明 者 門田暁美

⑱ 代 理 人 弁理士 青山葆 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

生薬成分含有化粧料組成物

2. 特許請求の範囲

必須成分として、生薬であるシヤクヤクまたはボタンピ末またはその水もしくは水性アルコール抽出エキスを単独または併用して配合したことを特徴とする生薬成分含有化粧料組成物。

3. 発明の詳細な説明

本発明は必須成分としてシヤクヤク、ボタンピ末またはその水性抽出エキスを含有する化粧料組成物(医薬部外品としての薬用化粧料、テンカ粉を含む。以下、同じ)に関する。

従来から化粧料に種々の薬効剤を処方することが提案されているが、有効性、安全性の点から充分満足するものはなかなか見当たらない。

本発明者らは、意外にも、生薬シヤクヤク(芍薬)やボタンピ(牡丹皮)が外用により運用した場合に、「肌アレ」、「シミ」、「ソバカス」、「ニキビ」、「カユミ」などの改善にすぐれた効

果を発揮し、連用を常とする化粧料に配合する薬効成分として適していることを見出し、本発明を完成するにいたつた。

すなわち、本発明は、必須成分として、シヤクヤクまたはボタンピの末またはその水もしくは水性アルコール抽出エキスを単独または併用して配合してなる化粧料組成物を提供するものである。

シヤクヤクは、ボタン科(Paeoniaceae)シヤクヤク(Paeonia lactiflora Pall)の根の、また、ボタンピは、同じくボタン科のボタン(Paeonia suffruticosa Andr)根皮の何れも乾燥物で、共通の成分としてペオノール(Paeonol)、ペオニフロリン(Paeoniflorin)、ペオノサイド(Paeonoside)などを含み、ボタンピの成分にオキシペオニフロリン(Oxypaeoniflorin)、ベンゾイルペオニフロリン(Benzoyl-Paeoniflorin)、ベンゾイルオキシペオニフロリン(Benzoyl-Oxypaeoniflorin)などが知られているが、シヤクヤク、ボタンピ共専ら漢方製剤の一成分として、シヤクヤクは収歟、緩和、

鎮痛、鎮痙の、ボタンビは瘀瘀血、通経、排膿などの目的で内服の用にのみ供されてきた。即ち両生薬ともその如何なる形においても、また上記各成分としても嘗つて外用、殊に化粧品として用いられた例は見当らない。

以下の実施例に見られるとおり、これらの生薬を化粧品に配合した場合、その効果は目をみはるものがあり、かつ、いずれの生薬とも日本薬局方収載生薬であり、内服剤としての歴史も長く、安全性に関しても従つて高いといふことができる。

本発明においては、シャクヤクまたはボタンビ末またはその水もしくは水性アルコール、例えば3.0%エタノールを用い、通常15~25℃で抽出処理して得られる水性エキス(例えば、シャクヤクの場合、原料シャクヤク5部からエキス1部を得る)を単独でまたはこれらを併用して化粧品に対して0.005%(重量%、以下同じ)以上配合する。配合量の上限は特に限定するものではないが、エキス配合の場合は着色等の商品価値の観点から、一般に、シャクヤク、ボタンビ末または

エキスの合計で約2%程度まで配合するのが好ましい。

本発明の化粧品組成物は常法に従つてクリーム、化粧水、テンカ粉、石鹸などの通常のいずれもの剤型とすることができ、他の配合成分は特に限定するものではなく、通常用いられるものいずれもが使用できる。

つぎに実施例を挙げて本発明をさらに詳しく説明する。

#### 実施例1

##### 化粧用クリーム

##### 処 方

配合成分	重量%
ミツロウ	6
脂肪酸グリセリン	4
セタノール	5
還元ラノリン	8
スクワラン	37.5
プロピレングリコール	5
乳 化 剤	2

保存剤、着香剤	0.2
シャクヤクエキス	0.005
ボタンビエキス	0.005
精 製 水	残部

得られた化粧用クリームの「肌アレ」等に対する効果をつぎのとおりテストした。

#### (1) 被験者

「シミまたはソバカス」、「肌アレ」、「ニキビ」、「カユミ」のある男子2名(29才~33才)および女子15名(20才~46才)。

#### (2) テスト方法

被験者(男女合計17名)に、毎日、就寝前と朝の2回、温湯で洗顔後に化粧用クリームを少量顔にぬらせ、2週間後(シミ、ソバカスの場合は3ヶ月後)にその症状改善効果を評価した。

#### (3) 評 価

各症状の程度をつぎのとおり区分した。

#### (4)

シミ、ソバカス：色も境界もはつきりしている。

ニキビ：発赤やいたみがあり、あとを絶たない。

カユミ：がまんできない程度のカユミ。

肌アレ：皮膚上でクリームをのばしてもザラザラして指に異物感がある。

#### (4)

シミ、ソバカス：境界ははつきりしているが、色はうすい。

ニキビ：数も多くなく、症状も重くない。

カユミ：がまんできない程ではない。

肌アレ：皮膚上でクリームをのばすとザラザラするが、指先に異物感はない。

#### Ⅳ

シミ、ソバカス：色は残っているが、境界ははつきりしない。

ニキビ：症状は軽く、あとをとどめる程度。

カユミ：ときどきかゆくなる程度。

肌アレ：皮膚上でクリームをのばすとザラザラせず、普通にのびる。

Ⅴシミ、ソバカス：ほとんど目立たない。

ニキビ：ほとんど目立たない。

カユミ：ほとんどかゆみを感じない。

肌アレ：皮膚上でクリームをのばすとすべりよく、よくのびる。

この症状の区分に従い、各症状ごとに、(イ)から(ケ)あるいは、(ロ)から(ニ)への症状の改善を有効、(イ)から(ロ)、(ロ)から(ケ)あるいは(ケ)から(ニ)への症状の改善を稍効、症状の変化なしあるいは悪化を無効として評価した。なお、被験者の症状は単独の場合も、他の症状を伴う場合もあり、夫々、症状ごとに評価した。

結果を第1表に示す。

第1表

症 状	性別	有 効	稍 効	無 効	全症例中の 有稍効数
シミ、ソ バカス	男	—	—	—	6/7
	女	2	4	1	
肌アレ	男	—	—	—	13/14
	女	6	7	1	
ニキビ	男	—	—	—	6/6
	女	5	1	—	
カユミ	男	2	—	—	13/15
	女	5	6	2	

## 実施例2

化粧水

処 方

配合成分	重量%
グリセリン	5
プロピレングリコール	4
オレイルアルコール	0.1
乳 化 剤	2

エタノール	10
保存剤、着香剤	0.2
シヤクヤクエキス	0.005
ボタンビエキス	0.005
精 製 水	残部

得られた化粧水の「肌アレ」等に対する効果を実施例1におけると同様にテストした（被験者：男子4名（18才～25才）、女子17名（16才～60才））。

結果を第2表に示す。

第2表

症 状	性別	有 効	稍 効	無 効	全症例中の 有稍効数
シミ、ソ バカス	男	—	—	—	8/11
	女	6	2	3	
肌アレ	男	1	3	—	21/21
	女	10	7	—	
ニキビ	男	—	3	—	9/9
	女	4	2	—	
カユミ	男	—	—	—	12/12
	女	7	5	—	

## 実施例3

化粧石鹸

処 方

配合成分	重量%
着 香 剤	0.2
シヤクヤクエキス	0.2
石鹸用ベース	残部

得られた化粧石鹸の「肌アレ」等に対する効果を実施例1におけると同様にテストした（就寝前および朝、温湯にて該石鹸を用いて洗顔。被験者：男子10名（21才～50才）、女子15名（16才～63才））。

結果を第3表に示す。

第3表

症 状	性別	有 効	稍 効	無 効	全症例中の 有稍効数
シミ、ソ バカス	男	—	4	—	8/10
	女	3	4	2	
肌アレ	男	8	2	—	25/25
	女	10	5	—	
ニキビ	男	2	5	—	14/14
	女	2	5	—	
カユミ	男	1	1	1	9/12
	女	7	—	2	

## 実施例4

テンカ粉

処 方

配合成分

重量%

タ ル ク

45

炭酸カルシウム

13

ボタンビ末

1

麝 香 剤

0.1

カオリン

残部

アセモ：アセモはできているが、赤味はうすく、  
カユミもあまりない。

オシメカブレ：赤味はうすく、カブレは軽度。

(一)

アセモ：皮膚がほぼ正常な状態。

オシメカブレ：皮膚がほぼ正常な状態。

各症状につき、2段階以上の改善を有効、1段階の改善を稍効、変化なしあるいは悪化を無効とした。

結果を第4表に示す。

第4表

症 状	性別	有 効	稍 効	無 効	全症例中の 有稍効数
アセモ	男	3	1	—	13/13
	女	5	4	—	
オシメ カブレ	男	2	—	—	10/10
	女	4	4	—	

第1表～第4表の結果から明らかなごとく、本発明の生薬成分含有化粧品組成物は「肌アレ」、「シミ」、「ソバカス」、「ニキビ」、「カユミ

得られたテンカ粉の「アセモ」等に対する効果をつぎのとおりテストした。

## (1) 被験者

男子7名(1才～51才)、女子10名(1才～71才)。

## (2) テスト方法

毎日、就寝前と朝の2回、患部を温湯で洗い、テンカ粉を適量撒布させ、症状の改善効果を評価した。

## (3) 評 価

症状の程度をつぎのとおり区分した。

(イ)

アセモ：一面にアセモができて、赤味が強い。

オシメカブレ：赤くなつて広くカブレている。

(ロ)

アセモ：アセモの部分は広くなく、赤味もそう強くない。カユミがある。

オシメカブレ：赤くなっているが、カブレはひどくない。

(ハ)

「アセモ」、「オムツカブレ」などの改善にすぐれた効果を発揮する。

特許出願人 株式会社大阪薬品研究所

代 理 人 弁理士 青 山 保 雄 氏 2 名

[First Hit](#)      [Previous Doc](#)      [Next Doc](#)      [Go to Doc#](#)**End of Result Set**☐ [Generate Collection](#) [Print](#)

L13: Entry 1 of 1

File: JPAB

Feb 12, 1983

PUB-NO: JP358023612A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 58023612 A

TITLE: COSMETIC COMPOSITION CONTAINING CRUDE DRUG COMPONENT

PUBN-DATE: February 12, 1983

## INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

UCHIDA, YOSHIHIRO

KADOTA, AKIMI

FUJIKAWA, MAKIHIKO

## ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

OSAKA CHEM LAB

APPL-NO: JP56122240

APPL-DATE: August 4, 1981

US-CL-CURRENT: 424/725

INT-CL (IPC): A61K 7/00

ABSTRACT:

PURPOSE: The titled composition, containing powder of Paeonia albiflora Pall. (peony) or Paeonia suffruticosa Andr. or an aqueous extract thereof, etc., and capable of exhibiting improved effect on the improvement of skin roughening, liver-spot, ephelis, pimple, itching, etc. in the form of a cream, nursery powder, soap, etc.

CONSTITUTION: The titled composition containing powder of Paeonia albiflora Pall, (peony) or Paeonia suffruticosa Andr. or an aqueous extract thereof as an essential component. The crude drug component has a long history as an internal medicine and high safety. Furthermore, the continuous use thereof contained in a cosmetic has improved effect on the improvement of skin roughening, liver-spot, ephelis, pimple, itching, etc., and suitable for the drug component to be mixed with the cosmetic generally in continuous use. The Paeonia albiflora Pall. in the component is the dried root thereof, and the Paeonia suffruticosa Andr. is the dried root bark thereof. The aqueous extract is obtained by extracting the root or root bark with water or aqueous alcohol, e.g. 30% ethanol, at 15~25°C, and the mixing ratio is 0.005~2wt% based on the total crude drug.

COPYRIGHT: (C)1983,JPO&amp;Japio

[Previous Doc](#)      [Next Doc](#)      [Go to Doc#](#)

[First Hit](#)   [Previous Doc](#)   [Next Doc](#)   [Go to Doc#](#)**End of Result Set**☐ [Generate Collection](#) [Print](#)

L2: Entry 22 of 22

File: DWPI

Feb 12, 1983

DERWENT-ACC-NO: 1983-28349K

DERWENT-WEEK: 198312

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Cosmetic compsn. for skin treatment - contg. specified peony plants or their  
aq. or aq. alcoholic extracts

PATENT-ASSIGNEE: OSAKA YAKUHHIN KENKYUSHO KK (OSYK)

PRIORITY-DATA: 1981JP-0122240 (August 4, 1981)

[Search Selected](#)[Search ALL](#)[Clear](#)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
<input type="checkbox"/> <u>JP 58023612 A</u>	February 12, 1983		004	

INT-CL (IPC): A61K 7/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 58023612A  
BASIC-ABSTRACT:

Cosmetic compsn. is claimed where raw drug Paeonia lactiflora Pall Paeoniaceae or Paeonia suffruticosa Andr powder or its aq. extract and/or aq. alcohol extract are combined as necessary component. We have found that external application of raw drug Paeonia lactiflora Pall or Paeonia suffruticosa Andr improves skin "desolation", chloasma, freckle, acne, and itching.

The parent material or its aq. extract or aq. alcohol extract e.g. aq. extract obtd. by extracting with 30% ethanol at 15-25 deg.C (e.g. in a case of Paeonia lactiflora Pall, 1 part of extract is obtd. from five parts of raw material) is combined in an amt. of 0.005 wt.% into cosmetics. Up to 2% total amt. may be added.

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 58023612A  
EQUIVALENT-ABSTRACTS:

DERWENT-CLASS: B04 D21

CPI-CODES: B04-A07F; B12-A07; D08-B09;

[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)



L3 ANSWER 14 OF 15 CAPLUS COPYRIGHT 2006 ACS on STN  
AN 1983:149462 CAPLUS  
DN 98:149462  
TI Skin cosmetics containing Paenonia extracts  
PA Osaka Yakuhin Kenkyusho K. K., Japan  
SO Jpn. Kokai Tokkyo Koho, 4 pp.  
CODEN: JKXXAF  
DT Patent  
LA Japanese  
FAN.CNT 1

	PATENT NO.	KIND	DATE	APPLICATION NO.	DATE
PI	<u>JP 58023612</u>	A2	19830212	JP 1981-122240	19810804
PRAI	JP 1981-122240		19810804		

AB Cosmetics containing exts. of Paenonia lactiflora roots or of P. suffruticosa root bark are effective in the treatment or prevention of rough skin, spots, freckles, acne, skin itch etc. As an example, the root or root bark was extracted with 30% EtOH at 15-25°. A cream was prepared containing beeswax 6, glycerides 4, cetanol 5, reduced lanolin 8, squalane 37.5, propylene glycol 5, emulsifying agents 2, preservatives and perfumes 0.2, P. lactiflora exts. 0.005, P. suffruticosa exts. 0.005 and distilled H2O to 100%. The exts. are known to contain paeonol, paeoniflorin, paeonoside, etc.